

第87号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 (E-mail)
 matsuoaka@kosanji.or.jp

同朋会旅行 天満別院参拝

四月十九日午前八時、雨がかりうじて降っていない時にJ A稲葉地を出発。

天気予報では今日の天気はバッチリ雨だ。バスに揺られながら大阪に向かう。ガイドさんの案内でバスの窓から、あべのハルカスを見た。名古屋とは違った大阪の道をバスは走り天満別院に到着。

天満別院に着くと職員の方が入口の前でお出迎え。さつそく二階の本堂に行く。本堂でお焼香をし、みんなでお勤めをする。その後、天満別院の輪番があいさつされた後、別院の説明を受ける。内陣の後ろにも案内してもらい後門柱の間に描かれた絵画を見る。

昼食をとり四天王寺へ。そういえば今日は傘をまったく使っていない。曇り空の中、広大な境内を歩く。

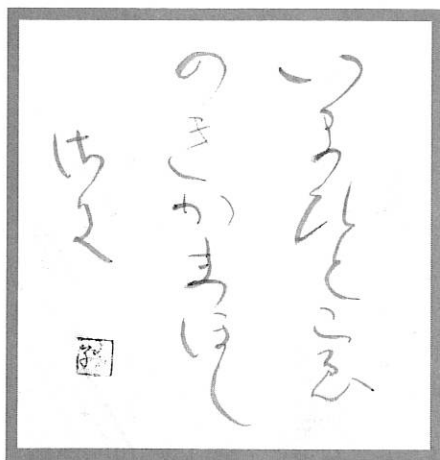


あつという間の一日で、それほど渋滞にはまることなくJ A稲葉地に到着。

廣讚寺本堂の歴史 ③

伊藤和美

昭和三十六年より本堂再建工事が始まった。鉄筋が
生まれ、コンクリートが流し込まれ、一本一本の柱が
建てられた。その後工事は着々と進み上棟式が盛大に
行われた。瓦の裏に名前を書き込まれた。瓦ふせが終
わり本堂の屋根が完成すると、東宿の町からも本堂の



姿が見ることができ
た。

昭和三十七年五月、
ガラス戸も入り第一
期工事は完了となる。
第二期工事は建具、

畳、左官工事、塗装工

事などが行れ、いよいよ

完成に近く。しかし

松岡亮住職が昭和三十

八年三月に亡くなられ

た。葬儀は九割がたできた新本堂で勤められた。

昭和三十九年十一月一日から三日、宗祖親鸞聖人七

百回忌御遠忌法要と落慶法要が厳修された。花火の号

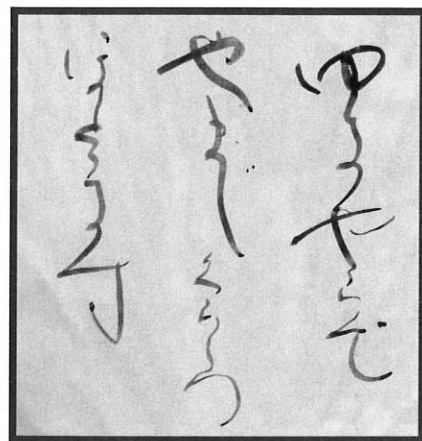
音から始まり、午前九時から入仏式。楽の演奏とともに、

仮本堂から新本堂へと本尊が移された。稚児も三

百人の予定が四百人の申し込みがあり大盛況であった。

戦後の空襲から約二十年、ようやく稲葉地に本堂が

よみがえったのである。



季節の奥

石川湍

春には

桜の花が咲いて散って行く

桜の奥には季節は無く

惜しまれて逝く命がある

夏には

何故か入道雲が湧き上がる

雲の奥には季節は無く

空の彼方への憧れがある

秋には

何故か木の葉が枯れて舞い落ちる

枯れ葉の奥には季節は無く

滅びるものの静けさがある

冬には

何故か雪が降って来る

雪の奥に季節は無く

巡る命の芽生えがある

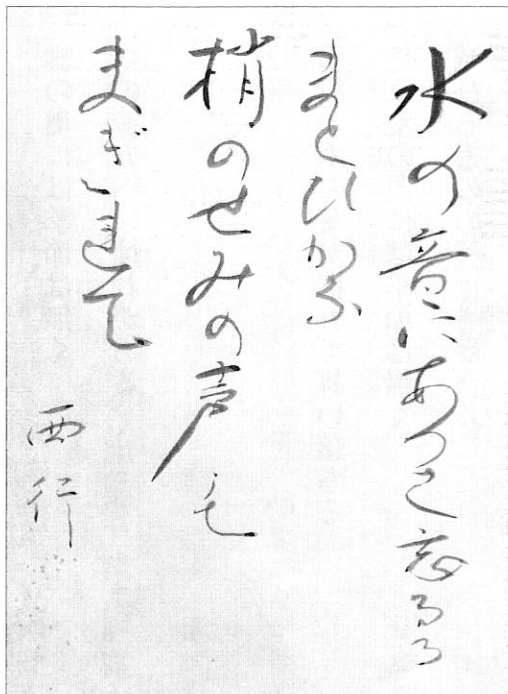
命の奥に季節は無く

何故か人は死んで行く

空の奥に季節は無く

何故か無数の星が瞬く





水の音にあつき忘るるまどみかな
こずえ 梢のせみの声もまぎれて

二十組行事

六月十六日(火) 暁天講座 朝六時五十分〜八時

善行寺にて

(中川区愛知町四一十九)

「ほんとうの仏事とは何か」講師 瓜生崇師

うりゆう たかし
 (同朋大学非常勤講師)

七月 七日(火) ご命日の集い 一時半〜三時半

林高寺にて

講師 松岡貴志

行事予定

六月 十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(金) 二時〜四時 学習会

二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講

七月 十一日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

納涼大会

十九日(日) 五時半 納涼大会

(雨天決行)

人形劇・輪なげ・ビンゴ大会など…

楽しい催しものがいっぱい。

どなたでもご参加ください。

二十日(祝) 九時 後片付け

二十八日(火) 十時 二十八日講・女人講